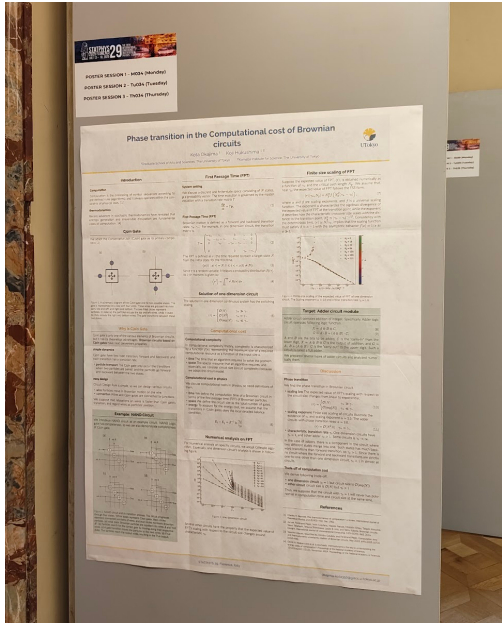


STATPHYS29 参加報告書

関連基礎科学系博士二年 岡嶋航太(福島研究室)

本プログラムで渡航助成をいただき、2025年7月12日から18日までにイタリアのフィレンツェで開催されたSTATPHYS29に参加した。



会議全体を通して、国内とは異なる分野のトレンドを感じ研究の方向に新しい視座を持つことができた。私の研究テーマは物理や数学では古典論に位置しており日本の学会では近しい研究というのは決して多くはない。しかし、会議においては古典系での情報エンジン、古典ビットや古典通信路の非平衡熱力学について大いに議論されており非常にいい刺激になった。

私は”Phase transition in the Computational cost of Brownian circuits”というタイトルでポスター発表を行った。ポスター発表の現場では他の研究者から質問をいただき、慣れない英語でも研究内容を説明し

議論することができた。

当然ながら、日常生活を含め現地でのコミュニケーションはほとんど英語であった。こ



れまで英語にやや苦手意識があったが、実際に海外で議論し会話する経験によって自信をつけることができた。

余談ではあるが、会議の行われたフィレンツェ市内は歴史ある街で、古くから文化の中心地として機能してきた。会議の合間に町を散策し美術館を見学するなど有意義な時間が過ごせた。

私は海外に行くのが初めてのことであったため、そこでの体験は何もかも新鮮であった。研究者としても、個人としても大変貴重な経験ができたと考えている。

本プログラムの渡航助成をいただいたこと、そしてこのような貴重な機会と経験が得られたことを、関係者の皆様へ改めて感謝申し上げます。